

社会ニーズに対応した 生涯研修制度の充実に力を入れたい

日本歯科衛生士会の新会長に就任した

武井典子氏に聞く



【プロフィール】

たけい のりこ。1980年、東京医科歯科大学歯学部附属歯科衛生士学校卒業、ライオン(株)口腔衛生部入社。1994年、同社退社後財団法人ライオン歯科衛生研究所入社。2005年、新潟大学大学院医歯学総合研究科修了。2009年4月、日本歯科衛生士会副会長、日本歯科衛生学会会長などを経て、2015年6月に公益社団法人日本歯科衛生士会会長に就任。

事業の承継と発展を目指す

―半田紀穂子理事 早速ですが、日本歯科衛生士会の新会長ご就任おめでとうございます。これから抱負、今後の方向などについて。

◆武井典子 日本歯科衛生士会会長 日本歯科衛生士会(以下、「当会」)の現・顧問である金澤紀子前会長は、日本歯科衛生学会や認定研修制度を立ち上げました。さらに当会の公益社団法人化や歯科衛生士法の一部改正など、多くの業績を

今回ご紹介させていただくのは、本年六月、公益社団法人日本歯科衛生士会の新会長に就任した武井典子氏。これまでも歯科医師と歯科衛生士の緊密な連携は重視されてきたが、近年はそれに加えて医療と介護、さらに在宅医療が加わる形で多職種連携が注目されている。さらにその中で、健康づくりの観点からも歯科医療と口腔ケアの重要性が強く認識され始め、歯科衛生士の活躍の場が広がることも、潜在的に存在している歯科衛生士が現場復帰しやすい環境づくりも重視されている。

このような、歯科医療にとって新しい時代へのステップを踏み出した時期に、新たに日本歯科衛生士会会長に就任された武井氏は、今後の歯科衛生士の育成や魅力ある業務づくりなどについてどのようなお考えを持ち、また進んでいくとしているのか、インタビューを行った。聞き手は、歯科衛生士資格も持つ協会の半田紀穂子理事。

社会ニーズに対応した 生涯研修の充実に力を入れたい

―今お話に出ました三つの認定研修制度ですが、その誕生の背景や現状、近未来像などについて、お話をください。

◆武井会長 現在、私が力を入れて取り組んでいます事業は、生涯研修制度の充実です。歯科衛生士の専門性をより深化させる狙いも

残してくださいました。今後も、これまでの事業を継ぎたいと考えています。

含め、社会ニーズに対応した「生活習慣病予防」「在宅療養指導」「摂食嚥下リハビリテーション」の三つの認定歯科衛生士制度が二〇〇八年にスタートしました。その後、関連学会との連携による認定も含め、二千六百八十八名の認定歯科衛生士が登録・公表され、全国で

歯科衛生士会に入会しましょう！

―専門性の高い歯科衛生士としての総合力を高めるためには？

◆武井会長 歯科衛生士が患者さんのもとより広く国民一般から信頼され、その上で活動を進めるためには、最新の歯科医療情報や技術、技能を身に付けることが必要で、それを支援する意味からも生涯研修制度の充実が不可欠ではないかと考えます。しかし、当会が社会的なニーズに対応した生涯研修制度を充実するだけでは、歯科衛生士が高

活躍しています。しかし、近年の急速な高齢化の進展とともに、保健、医療、介護と連携した業務推進が不可欠となり、今後は、地域包括ケアシステムにおいて、高齢者の口腔機能管理をベースとした訪問口腔ケア等の役割が期待されています。これらのニーズに対応した認定研修制度のさらなる充実が重要です。また

歯科衛生研究にもチャレンジを！

―さらに、歯科衛生士の専門性を確立するためには、どうすれば？

◆武井会長 近年では、医療、介護、予防、生活支援および住まいの五つの視点から、地域において包括的に支援する取り組みが進められています。今後さらに、「医療から介護へ」、「病院・施設から地域・在宅へ」への流れが加速すると予測されています。このような環境の変化に伴い、歯科衛生業務は、病院、施設、地域、在宅において医療や介護に関わる多職種と連携した中

研修を継続的に受講し、常に専門性の向上に努めている職種であることをアピールすることが大切です。日本歯科衛生士会が都道府県歯科衛生士会と連携して生涯研修や認定研修を充実させて、多くの歯科衛生士の資質の向上を狙っていくことが、歯科衛生士の総合力を高め、多職種や国民から信頼される職種となると確信しております。みなさん、職能団体である『歯科衛生士会』に入会しましょう！そして、責任のある業務ができるよう生涯研修を受講しましょう！

歯科衛生士の人材確保も 今後の大きな課題に

―潜在化している歯科衛生士に対しては、どのような取り組みを考えていらっしゃいますか？

◆武井会長 当会が取り組むべき大きな課題のいままは、歯科衛生士の人材確保があります。昨年末時点

の歯科衛生士就業者数は十一万六千二百九十九名で、就業歯科医師数よりも多くなっています。しかし、実際に歯科衛生士の資格を持つ人は二十五万名以上いますから、約半数の歯科衛生士が就業していないことに

研修を継続的に受講し、常に専門性の向上に努めている職種であることをアピールすることが大切です。日本歯科衛生士会が都道府県歯科衛生士会と連携して生涯研修や認定研修を充実させて、多くの歯科衛生士の資質の向上を狙っていくことが、歯科衛生士の総合力を高め、多職種や国民から信頼される職種となると確信しております。みなさん、職能団体である『歯科衛生士会』に入会しましょう！そして、責任のある業務ができるよう生涯研修を受講しましょう！

主催／全国保険医団体連合会 第30回 保団連医療研究フォーラム 参加者募集中!!

メインテーマ◆今、改めて考える第一線医療・医学の創造―30年の時を経て

日時：2015年10月10日(土)～11日(日)
会場：都市センターホテル
千代田区平河町2-4-1

参加費
医師・歯科医師……………8,000円
コ・メディカル、コ・デンタル……………500円
一般・学生……………無料

主なプログラム

- 10月10日(土)
 - 全国共同調査結果報告 17:10～17:30
骨粗鬆症等治療薬と顎骨壊死・顎骨骨髓炎 実態・意識調査
 - 特別企画 17:35～18:05
映画:「いしや先生」予告編上映
講演:あべ美佳氏(脚本家)
 - 記念講演 18:50～20:00
「戦後70年～人間として言うべきこと」/俳優:宝田明氏
 - 10月11日(日)
 - 分科会 09:00～12:00
 - シンポジウム 13:00～15:30
- テーマⅠ 患者本位の診療体制を構築する～明日から始める医科歯科連携
テーマⅡ 大震災と医療・社会保障～被災者本位の復興めざして
テーマⅢ 「本来の高齢者医療」に立ち返る

お申し込みは東京歯科保険医協会へ→ 03-3205-2999 (地域医療部)

―本日はお忙しい中、本当にありがとうございます。くお願いいたします。



日本歯科衛生士会内でインタビュー。写真右が、協会の半田紀穂子理事。